



ノンフレーム工法「標準積算資料」改訂！

平成29年7月ノンフレーム工法研究会では「標準積算資料」を改訂しました。

平成29年7月、3年ぶりに「標準積算資料」を改訂しました。

いままでの「標準積算資料」（平成26年4月版）との変更点の概要をご案内します。

今回の改訂では、特に「削孔工」の内、削孔機械にボーリングマシン（軽量型）を使用する際に利用する「ケーシング併用削孔方式」の歩掛りを変更しております。

平成27年度に「一般社団法人 全国特定法面保護協会」発行の「ロックボルト工積算資料（参考）」が改訂されたことを受け、主に「ケーシング併用削孔方式」の歩掛りについて、この資料を参考にノンフレーム工法の積算についても、見直しを実施しました。

「標準積算資料（平成29年7月改訂版）」

4. 標準歩掛

4-2. 削孔工

4-2-3 「二重管削孔方式の場合」（P. 8）

※今までは「ケーシング併用方式」と記載しており、今回の改訂にて、呼び名を変更しております。

(1) ボーリングマシン（軽量型）の削孔能率の変更。

表4-2-9

(2) 削孔ツールの損耗（m当り）のツールの変更と損耗数値の変更。 表4-2-10

※これは、削孔機械の改良に伴い、実際の現場で使用される機械損耗費に近いものに変更しております。

(3) 削孔工の標準歩掛（10m当り）の歩掛自体の変更表4-2-11

※標準歩掛り自体の変更についても、最近の削孔機械の能力の向上や部品の変更等に対応ものとなっています。

※ノンフレーム工法の「二重管削孔方式」の歩掛りは、全国特定法面保護協会の「ロックボルト工積算資料」の歩掛を以前から参考にしてきました。「ロックボルト工積算資料」の前回の改定は平成17年8月と、10年を経過しております。削孔機械の改良等、実際の現場に近いものに変更された今回の改訂にノンフレーム工法の標準歩掛も変更いたしました。



第15回ノンフレーム工法写真コンクール 結果発表!

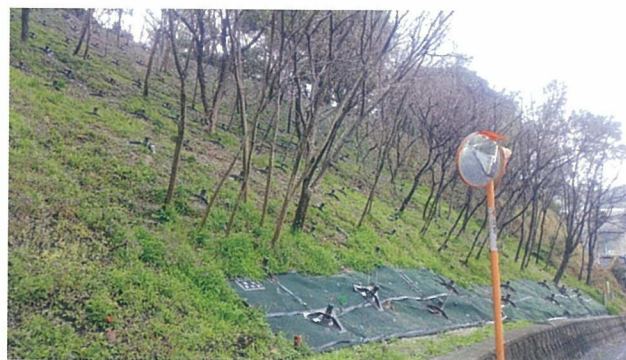
今年7月に開催された、ノンフレーム工法研究会第17回定時総会において、「第15回写真コンクール」の結果が発表されました。

写真コンクールも15回目を迎え、応募数も44作品と着実に増加しております。全国から、まさに力作が多く届きました。そのなかから、「最優秀賞」には研究会会員「国土防災技術(株)佐賀営業所」の山内様の作品が選ばれました。

【最優秀賞】



【施工直後】



【施工後3ヶ月】

この作品の現場は、学問の神様として有名な菅原道真公を祀った太宰府天満宮のそば、九州国立博物館の近くの斜面です。土砂災害特別警戒区域に指定された、国立博物館が管理する斜面の防災対策としてノンフレーム工法が施工されました。

低層住宅地と道路に面している一方、博物館や天満宮の周辺散策道の一部ともなっているため、景観に配慮して支圧板とキャップは、めっき処理の上に塗装を施しました。

ノンフレーム工法は近年、土砂災害防止法の区域指定が進む中、都市部や都市近郊の住宅地での斜面对策に利用されることが増えてまいりました。「既存の樹木を残して、防災対策、斜面对策が出来る工法」として、まさに、ノンフレーム工法の真価が発揮する場面です。

今年度の写真コンクールでは、上記「最優秀賞」1点のほか、優秀賞が6点選ばれました。

選ばれた作品は、「[ノンフレーム工法 HP](#)」

<http://www.non-frame.com> よりご確認ください。

また、来年も（第16回ノンフレーム工法写真コンクール）の開催を予定しております。どしどしご応募お待ちしております。応募については、来年（平成30年）2月頃にホームページ上に案内を掲載予定です。